

# 絆

K I Z U N A



# 2

2020 FEBRUARY  
JAグループ青森 月刊広報誌 [878号]

メッセージ	1
特集	2
これからも協同組合	4
FLASH	6
実践 農業者支援	8
インフォメーション	10
東北農政局通信あおもり	16
経営の窓口	17
農政広報通信	18
令和元年度 職員資格認証試験結果の概要	19
輝き	22
自慢の逸品	22
みりよく発信	23

表紙の写真  
新・農のある風景 ～其の47～ 毎年恒例干し餅作り開始（JA相馬村）

### 行事（2/10～3/10）

#### JA青森中央会

##### 2月

- 12日 県参協定例会（県農協会館）
- 13日 損益計算書における事業間取引等研修会（教育研修所）
- 14日 教育・人事労務研修会（教育研修所）
- 20日 営農担当常勤理事会議（ホテルクラウンパレス青森）
- 26日 定例理事会（県農協会館）
- 26日 農政対策常任委員会（県農協会館）
- 26日 報道機関幹部との意見交換会（アップルパレス青森）

##### 3月

- 4日 経営管理研修会（基礎）（県農協会館）
- 5～6日 非常勤理事研修会（ラ・プラス青い森）
- 6日 経営管理研修会（県農協会館）
- 10日 県下組合長会議（県農協会館）
- 10日 農政学習会（アップルパレス青森）

#### JAバンク青森

（農林中央金庫）

##### 2月

- 12日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）

##### 3月

- 1日 銀行業務検定試験（各会場）
- 9日 青森県JA信用担当部課長会議（県農協会館）

（農協電算センター）

##### 2月

- 26日 定時取締役会（県農協会館）

##### 3月

- 10日 臨時取締役会（県農協会館）

#### JA全農あおもり

##### 2月

- 13日 令和元年度農産物検査員育成研修修了式（県農協会館）
- 18～19日 第47回青森県農協営農指導員研修大会（浅虫さくら観光ホテル）
- 20～21日 JA肥料農薬窓口研修会（県農協会館）
- 26日 運営委員会（県農協会館）

##### 3月

- 10日 県下組合長会議（県農協会館）

#### JA共済連青森

##### 2月

- 13日 共済担当部課長会議（県農協会館）
- 18～19日 仕組改訂・事務改善事項研修会（県農協会館）
- 26日 運営委員会（県農協会館）

##### 3月

- 10日 県下組合長会議（県農協会館）



# message

メッセージ

## JAと共に「これからの女性部の方向性」 について

青森県JA女性組織協議会 会長理事 成田 縫子

私たち青森県JA女性組織協議会は、JA女性組織綱領のもと、JAと共に「食と農」を基軸とした活動に取り組んでいます。

今年度からJA全国女性組織協議会では、JA女性組織3カ年計画（2019年度～2021年度）「JA女性 地域で輝け 50万パワー☆」をスローガンに、農業への理解者を増やすため、地域に根差した活動に取り組んでいます。この「50万パワー」とは、全国54万人の女性組織メンバーが5つの具体的活動（1. 食を守る 2. 農業を支える 3. 地域を担う 4. 仲間をつくる 5. JA運営に参画する）において、力（パワー）を発揮し地域を輝かせてもらいたいとの思いを込めたものです。

その中でも私たち県女性協は、「食を守る」「農業を支える」に力を入れています。近年、大雨や度重なる台風の上陸で、全国的に大きな被害を受けており、「農業を続けられるか」と途方に暮れている仲間が全国にいます。幸いにも我が青森県は、近年大きな災害を逃れています。明日はどうなるかわかりません。こ

れらの災害は「地球温暖化による気候変動の影響」と識者の方は解説していますが、私自身もそう思っています。

では、私たちはどうすればいいのでしょうか。私たち女性部員に出来ることは何かと考えたときに、まずは小さなことからコツコツと始めてみるのだと考えました。『買い物にはエコバックを持参する』『無駄な買い物はしない』『食べ切れる量を調理する』『電気はこまめに消す』『リサイクル出来るものは分別してきちんとリサイクルに出す』など、簡単なことですが、小さな積み重ねが地球に優しくなっていくのではないのでしょうか。

そこで、県女性協では昨年12月の冬期研修会のテーマを「食品ロスとリサイクル」にしました。まずは懇親会に、最初の30分と最後の10分は料理を食べましょう、という趣旨の「30・10運動」を取り入れました。その結果、料理を堪能するだけでなく、参加者同士の会話も増え、食品ロスを減らすという効果がありました。そして、研修会には東北農政局の担当者を講師に招き「食品ロスと

リサイクル」について学びました。日本が置かれている食品ロスとリサイクル率の低さの現状を知り、参加した女性部員は刺激を受けていました。この研修会がアクションを起こすきっかけになってくれればいいと思っています。

そして「組織を守る」ことも大切な活動だと考えています。組織を守って行く為には、部員の減少を食い止めなければいけません。県女性協では「一人がひとりを目指せ女性部員2倍運動」に取り組んでいます。女性部として様々な内容の講習会や研修会を開催したり、部員一人一人が地域に向けて声掛けをするなどの発信を行っています。これらの取り組みを県全体で共有し、それぞれの地域に合った活動に取り入れることで、少しずつですが新しい仲間も増えていきます。

現在、単組織における女性部長の年齢条件が満たされず、県女性協の役員に「欠員」が出ておりますが、これからの女性部は、県全体が一つになってJAを盛り立て、家族、地域、生活、そして農業を守っていかなければならないと思っています。

J A全農あおもり

# 青森いきいきやさいレディ

## ～令和元年度の活動内容～



6月18日、青森市のホテル青森で開催した「令和元年度やさい・花き販売懇談会」で全国の市場関係者らに初お披露目となった。村上さんは「初のレディとして責任を感じている。青森を盛り上げる一員として努めていきたい」と話し、伊藤さんは「多くの人に、青森のやさいに興味を持ってもらい購入していただけるよう頑張りたい」と抱負を述べた。

I. 全国の市場関係者に初お披露目



選ばれた喜びをかみしめる2人

J A全農あおもりは、青森県内外のキャンペーン・販売促進活動に同行し、県産やさい・花きを消費者に広くPRするとともに、更なる認知度向上を目的に「青森いきいきやさいレディ」を募集。  
令和元年5月11日、青森市のサンロード青森でコンテストの最終審査を行い、村上日向子さんと伊藤摩美さんの2人を選んだ。任期は元年6月1日から3年6月30日まで。  
選ばれた2人は、様々なイベントに参加し、県産やさいのPRを行った。

7月17日、三村申吾青森県知事を表敬訪問し、ハウス食品(株)とのコラボで考案したオリジナルカレー「青森県産野菜たっぷりカレー」

III. ハウスとのコラボカレーをPR



試食を提供する伊藤さん

7月13日、東京都大田区の東京青果(株)マンモス競売場で開催した「ホクレンとのながいも合同宣伝会」に参加。最需期に向け、仲卸業者に「ながいもの梅肉和え」を試食提供し、食べ方を提案した。

II. ホクレンとのながいも合同宣伝会



初お披露目となった2人

7月27日から28日の2日間、仙台市の勾当台公園と市民広場で開催されたTBC東北放送が運営する震災復興支援イベント「TBC夏まつり」に参加

V. 「TBC夏まつり」に参加

7月23日、東京都大田区の大田市場で開催された、全農本所主催のイベント「きゅうりビズ」に参加。19日(良いきゅうりの日)も活用しながら、きゅうりの消費拡大に向けPRを行った。

IV. 「きゅうりビズ」に参加



オリジナルカレーをPRする2人

をPR。カレーには、長ねぎやながいも、ミニトマトの県産野菜に加え、県産米「まっしぐら」を使用した。



特別番組の生中継に出演する村上さん



きゅうりミスに参加する伊藤さん

9月22日、JAおいらせ本店（三沢市）および六戸会場で開催された「JAおいらせゆめまつり」に参加。また、10月19、20日の2日間は、JA十和田おいらせ本店（十和田市）およびおいらせ会場で開催された「JA十和田おいらせ収穫祭」に参加。

ステージイベントや、やさいの販売などでイベントを盛り上げた。



レシピの試食提案をする2人

8月31日、青森市のサンロード青森で開催した「やさいの日やさいフェス2019」に参加。県産やさいを使ったレシピの試食提案や、やさいクイズの出題などで会場を盛り上げた。



2019」に参加し、県産やさいをPR。特別番組の生中継に出演した。

売り場でPRする伊藤さん



ステージイベントでPRする村上さん



県外のイトーヨーカドーやイオンで開催された「青森県フェア」に参加し、三村知事らとともに県産品をPRした。



来場者へプレゼントを配布する伊藤さん



ステージを盛り上げる村上さん



おらかみ ひなこ  
村上 日向子

- ① 趣味・特技  
読書・散歩。音楽も好きで、休日はピアノを弾いたりもします。
- ② 旅行へ行くとしたら何処へ  
まだ行ったことのない土地を訪ねてみたいです。
- ③ 好きなタレント・芸能人  
田中みな実
- ④ 今後の抱負  
昨年は、県内外、様々なイベントに参加し、たくさんのごことを学びました。この経験や知識を活かし、全国のみなさんに青森県の野菜の魅力を伝えていきたいです。

青森いきいきやさいレディ  
の紹介



いとう まみ  
伊藤 摩美

- ① 趣味・特技  
筋トレ・ランニング
- ② 旅行へ行くとしたら何処へ  
台湾・沖縄県・北海道
- ③ 好きなタレント・芸能人  
ムロツヨシ
- ④ 今後の抱負  
安全で安心して食べられる、おいしい青森県のやさいについてもっと知識を深め、地域と生産者、消費者の架け橋になりたいと思っています。

# これからも 協同組合

第22回

協同組合・協同会社職員交流セミナーを開催しました

## 著者プロフィール

1997年 全国共済農業協同組合連合会入会  
2009年 財団法人 協同組合経営研究所に  
出向  
2010年 一般社団法人 J C 総研 (2018年4  
月より一般社団法人 日本協同組合  
連携機構 < J C A > に改組) に出向。  
現在にいたる。

一般社団法人 日本協同組合連携機構(JCA)

協同組合連携部 主席研究員

担当部長 小川直人

当機構は2019年10月24日(25日、J A 共済募張研修センター(千葉市)で「協同組合のファンづくりのために私たちは協同組合人として何をなすべきか」をテーマに2019年度協同組合・協同会社職員交流セミナーを開催しました。全国からJ A・生協・漁協・労働者協同組合など各種協同組合の中堅職員57名が参加しました。



## 基調講義「協同組合の組織特性をどう活かすか」

最初に立命館大学の増田佳昭招聘教授から基調講義を受けました。増田教授は「協同組合は人のつながりの組織である。組織があつてこそ事業がうまくいく。組合員組織と活動が協同組合らしさの源泉であり、組織と事業は車の両輪であるということをお話された。位置付け直す必要がある。J A の場合、営農事業では車の両輪は明白であるが、信用や共済事業でも組織や活動のデザ

インが不可欠であり、身近さや親近感を強めるためにも組織や活動をしっかりと組合の取り組みの中に位置づけるべきである。」と話されました。

増田教授は、さらに次のようなお話をされ参加者にエールを送りました。

「一般の企業の経営要素としてよく言われるものにヒト、モノ、カネ、情報があるが、さらに販路や技術を考えた場合に、協同組合経営において、その基盤の重要なところに組合員とのつながりが組み込まれているのが特徴だと思う。ヒトに関しては、組合員というヒトが存在するわけで、一般企業ではヒトは雇用されている社員を想定するが、協同組合では組合員を考えなければいけない。情報も事業体としての農協が持っているものだけではなく、組合員が持つ情報が大きな意味を持っている。モノの生産に関しても、メーカーは自らが作って販売するが、例えば J A は組合員が作ったものを販売するので、生産、モノのところもヒトの組織に依存している。こういった組織的な特徴を考えなければならぬし、さらに組織や活動は事業利用に結びついていろいろな局面で発生してくるので、ここを強化することが重要となる。」

「J A の支店ごとに組織活動のレベルと事業実績とを数字としてデータを集めて事業実績と組織活動のレベルを統計的に3つの県で調べてみたが、少なくとも相関関係があるということが分かった。協同組合は人の組織という側面を奮い起こしてやらないと、なかなか事業の実績につながらないということがここからも伺えるのではないかと思います。」

「協同組合が事業を展開する中で、同じ地域の競争相手を意識することが多

いかと思うが、同じ土俵、同じ武器で戦うのではなく、協同組合としての独自の土俵なり、独自の武器としての強みではないか。協同組合としての強みをどう活かすか、どう作るのかということを常に考え、行動する必要があるし、組合員視点、組合員目線でものを考えることが大事なことだと思う。それから、組合員との直接的なコミュニケーションを大事にすること。やはり面識性は協同組合の最大の強みである。」



**J A・生協・信用金庫からの実践報告**

次いで、3名の協同組合実践者から次のテーマで報告を受けました。① J Aはだの専務理事宮永均氏「組合員力・役職員力の発揮について」、② 福井県民生活協同組合執行役員中川政弘

氏「生協と農業へのチャレンジとこれからの協同組合連携」、③ 城南信用金庫人財育成担当顧問宮島いみこ氏「人を大切にする経営、思いやりを大切にする経営」。

宮永専務は、「大事なのはリーダーシップであり、管理者は自分の言葉でしっかりと伝えることが大切だと思う。そして実践を担う現場リーダーの成長のための場づくりが大事である。地道で愚直な活動を何度も何度も繰り返しやっていくことが大事で、訪問日などを通じて組合員とのコミュニケーションの機会をたくさん作っていくことが重要だ。また、大切なのはマインド・自発性だ。いやいや仕事をしていては駄目で、自信と誇りを持ってほしいと思う。色々な機会をいただき、リーダーシップとは人やチームに影響を与えて結果を出すことだということを学んだ。紀元前500年ころの中国の思想家である孫子は、リーダーに必要な要素として「智」、「信」、「仁」、「勇」、「嚴」の5つを挙げている。覚えておいてほしい言葉である。部下と相互に信頼し合うためには、よりよい人間関係を維持しようとする行動、親しみやすい態度、細かい気配り、そしてメンバーの提案を重視すること、が大事だと思う。」と提言された。

中川執行役員は、「レインボーファームの現場にいると色々な人が話しかけてくるが、そこで、生産者の一番の悩みは農産物の販路だということに気付かされた。その点で我々は生協という大きな販路を持っている。レインボーファームは提携した新規就農者を中心としたJ Aが生産した農産物を集め、生協に販売する仕組みになっているのが、これを広げていきたいと思っています。」

る。J Aの呼びかけで2019年9月に開いた交流会では、県内や近県のJ Aの「フレッシュミズ」や生協組合員ら約90人が参加し、それぞれの活動やオリジナルの商品を紹介し、取り組みを共有した。今後10年間でふくいレインボーファームが福井県農業の活性化に向けて何ができるかということに関しては、大きな役割としてJ Aと生協のつなぎ役であるべきだと思っている。J Aから出荷される農産物を集めてレインボーファームが加工、または流通を担って、生協に回すということだと考えている。そして双方の組合員による産地交流などをさらに活性化させていきたいと考えている。」と提言された。

宮島顧問は、「全員涉外」という活動を平成27年1月から実施している。これは女性職員にもより活動の場を広げてもらうために始めたもので、店内事務をしている女性職員も含め全員が涉外活動に参加するというものである。「涉外は男性」という、金融機関では長く当たり前だと思われてきた固定観念を変えて実施しているものである。最近では、お客様のところへ訪問して接することを喜びにできる女性職員も増えてきた。職員の誰もがお客様のために活動できる場所を信用金庫が提供する。そして職員一人ひとりがキラキラ輝くことが何よりも大切であると考えている。」と提言された。

**ワールドカフェで「心構え」「行動指針」を作成**

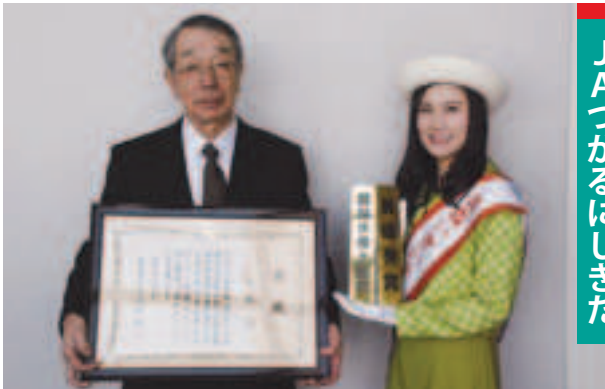
その後、セミナー参加者は9班に分かれてワールドカフェ方式によるワークショップを行いました。参加者は、

今回のテーマである「協同組合のファングづくりのために私たちは協同組合人として何をなすべきか」について熱心に議論を行い、グループごとに協同組合人共通の「心構え」を作成し、個人の行動指針も作成してもらいました。参加者からは、「全国の協同組合の仲間とじっくりとお話ができる機会はあまりないのでとても有意義で楽しい2日間だった。基調講義、実践報告、他県の現状・活動内容、色々な人の意見・思いを聞いてとても参考になった。しっかりと自分の中に落とし込んで自分なりに考えてこれからの業務に生かしていきたい。」といった感想をいただきました。

このような激励のことは糧に、今後ともますます充実したセミナーにして参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



JAつがるにしきた



### 佐藤さん農林水産大臣賞 にくにく表彰式（1/16）

県と全農あおもり主催の2019年度にくにくフォーラムが、JA津軽みらい常盤基幹支店で開かれ、昨年9月3日に行われた県にくにく共進会で最優秀賞と農林水産大臣賞に選ばれたJAつがるにしきたの佐藤誠さんに表彰状が授与された。佐藤さんは「後継者育成に力を入れ、高品質生産に努めたい」と喜びを語った。

JAつがる弘前



### 常勤理事と意見交換 女性部青年部が合同で「常勤理事と語る会」開催（1/24）

JAつがる弘前の女性部と青年部は、JA本店3階ホールで、「常勤理事と語る会」を開き37人の部員が参加した。語る会は、組織や組合員等が抱える思いや問題点などを共有することを目的に開催したものでJAの主要農産物であるリンゴの取り扱い方法や、生産資材コストの削減、放牧園減少に向けた取り組み状況についての質問や要望、意見が出された。



JA相馬村

### 今年も美味しい相馬の干し餅作ります（1/20）

JA相馬村管内の農家らによる干し餅作りが始まった。約1か月間寒風にさらし、2月中旬に直売所等で販売する。オレンジや緑などの色とりどりの干し餅の味は9種類。干し餅作りに携わる農家は「毎年楽しみにしている消費者も多い。是非この機会に多くのお客様に味わってもらいたい」と笑顔で述べた。

JA青森



### トマト部会あすなる支部 通常総会（1/24）

JA青森トマト部会あすなる支部は、青森市にある「あおもり健康ランド」において第10回通常総会を開催し、5議案が審議され、全て決議された。

JAごしょつがる



### 剪定時の注意点を学ぶ（1/10）

JAごしょつがるは、五所川原市七和地区羽野木沢の組合員園地で、新春りんご剪定講習会を開いた。講習会には150人と、例年を超えるりんご生産者が参加した。講師には、第5期県りんご剪定士、県りんご協会特別講師の田沢俊明さん（弘前市五所）を迎え、剪定時の各種注意点について学んだ。



**JA十和田おいらせ**



**若い力結集 産地振興へ士気高める (1/17)**

JA十和田おいらせは、JA本店で「若手農業者パワーアップ大会」を開き、20~40代の農業後継者ら300人が集まり、魅力ある農業、儲かる農業に向け、産地振興へ士気を高めた。若手農業者を代表し、野菜農家で東北町の佐々木祐輔さん(35)が決意を表明。佐々木さんは「JAの協力、ここにいる皆さんの力と共に、これからも明るい農業を創り続けていこう」と述べた。

**JA津軽みらい**



**JA青年部が肥料配達で地域貢献 (1/19)**

JA津軽みらい青年部では、JAの事業に協力する活動として春肥料の配達を1月下旬から行っている。肥料配達の協力は、青年部のポリシーブックに記載されている活動であり、JA各グリーンセンターの担当職員と連携して毎年行っている。肥料配達は各地区で4月上旬まで行われる。

**JAおいらせ**



**体に優しい食事を地域高齢者に振る舞う  
JAおいらせ助けあい組織ミニデイサービス (1/16)**

JAおいらせ助けあい組織「虹の会」は、三沢市前平公民館でミニデイサービス「おいしい会」を開き、昼食会や手芸などで地域の高齢者と交流した。前平地区の70才以上の参加者らは「イワシのつみれ汁がやわらかでおいしく、懐かしい気持ちで食べた」と述べた。また、参加者は会員と一緒に「幸運を呼ぶボンボン」作りや体操を行うなどおいしく楽しみながら一日を過ごした。



**JAゆうき青森**

**新年の安全輸送を祈願 (1/8)**

JAゆうき青森は、本所活菜館で初荷出立式を開き、積荷の安全輸送を祈願した。出立式では運送会社を代表し乙供運送(株)が「預かった積荷は我が子のように大事に扱い、いかなる条件下でも、安全運転を心掛ける」と安全宣言を行った。関係者60名が見守る中、ナガイモやゴボウなどが積まれたトラック3台が関東・中部地方へ出立した。

**名川支店ふれあい活動 (1/18)**

JA八戸名川支店は、八戸シーガルビューホテルで「JA八戸名川支店地域ふれあい活動 in 八戸シーガルビューホテル花と月の渚」を行い、22人が参加した。川守田敬支店運営実行委員長は「3月に名川支店が南部支店と統合になります。今後も、力を合わせて頑張っていきましょう」と挨拶。参加者は「職員や参加者と交流することができ楽しかった。また、このような機会があったら参加したい」と感想を述べた。

**JA八戸**



# 実践 農業者支援

## 援農ボランティアの実施について ～協同組合、県内企業とスクラムを組んで～

J Aグループ青森四連では、農業者の所得増大に向けた支援として、「農業者支援事業」を実施している。平成30年度からは、その一環として、県内企業等の協力を得て、「援農ボランティア」を始めた。

### 【目的】

この取組みは、農業と触れ合う機会の少ない県内企業等の社員に対し、農作業体験を通じて、農業への理解と地産地消の意識向上、また、喫緊の課題である農家の労働力不足の軽減を目的に実施している。

受入農家側に対しては、農作業経験の浅いボランティアを受入れることで、今後の外部労働力確保の参考にして欲しいとの思いがある。

### 【取組内容】

平成30年度、令和元年度の実施概要は（表1）のとおり。

特に、令和元年度は、協同組合間の連携により、多数のボランティアの参加をいただくことができた。

取組みの実施にあたっては、平成29年度にJ Aの協力により実施した「労働力不足実態把握調査」の結果やJ Aが把握している現状をもとに、不足する労働期間を補う形で企画し

（表1）援農ボランティアの実施概要

	平成30年度	令和元年度	増減
実施時期	平成30年9月8日 ～11月18日	令和元年7月6日 ～11月16日	
実施回数	11回	13回	2回増加
受入農家数	延べ49名	延べ59名	10名増加
参加者数	延べ237名	延べ253名	16名増加
参加団体数	3団体 ・県内企業2社 ・J Aグループ青森四連	8団体 ・県内企業2社 ・県漁連 ・県生協連 ・県森連 ・連合青森 ・青森県 ・J Aグループ青森四連	5団体増
受入J A数	5 J A	9 J A	4 J A増
援農時間	8時30分～15時30分		

ている。

一方、援農ボランティア参加者は、個人の自由意志で行うものとし、「自主性」「社会性」「無償性」のボランティア活動の原則に基づき活動することとしている。

### 【取組結果】

今後の取組みに活かすことを目的

（表2）受入農家の意向

質問事項と回答内容	回答率
①ボランティアの仕事ぶりについて	
・「満足」、「まあまあ満足」	97%
・「あまり満足しない」	3%
②援農時間について	
・「もっと長い時間が良い」	79%
・「やや長すぎる」	21%
③他者への紹介について	
・「紹介したい」	86%
・「あまり紹介したくない」	14%
④来年度の受入れについて	
・「受入れたい」	97%
うち、約半数の農家は賃金を払ってでも来てほしいと回答	
・「受入れたくない」	3%

に受入農家やボランティアを対象にアンケートを実施している。受入農家の意向（表2）、受入農家の主な意見（表3）、ボランティアの声（表4）は次のとおり。受入農家の意向の特徴としては、ボランティアの受入れに不安を感じていた農家についても、ボランティアの活躍ぶりに高い満足度を示していると同時に来年度の受入れに対する期待度も高いものになっている。

(表3) 受入農家の主な意見

好意的な意見

- ①大変ありがたい取り組みだ。JAを見直した。
- ②特に人手が足りない葉とり等の援農は非常に助かる。ぜひ来年も頼みたい。
- ③もっとボランティアの皆さんといろいろ交流したい。
- ④賃金を払ってでも来てほしい。

今後の課題とすべき意見

- ①賃金を払うまでには技術不足が感じられる。
- ②JAで宿泊場所を確保して1泊2日でお願いしたい。
- ③JAではもっと早い時期にこのようなことに取り組むべきだったのでは。

(表4) ボランティアの声

好意的な意見

- ①快く受け入れてくださった農家や農協の方々に感謝。
- ②今後、収穫されるりんごの香りを間近で感じることができた。また、汗をかいて作業を行うことで作業の達成感を味わうことができ、非常に良い体験となった。
- ③炎天下の中、りんごの葉取りをやったが、農家の方が一生懸命やっている姿を見て、改めて農業に対する大変さを感じた。
- ④収穫作業だったが、作業の成果が分かりやすく、達成感を感じ、作業自体も楽しむことができた。
- ⑤私たちが食べる食品を生産者が日々汗を流し、収穫する様子を身近で体験することができ、農家の苦勞を感じる事ができた。
- ⑥これまで農業に参加したことがなかったので、今回は貴重な機会になった。また、協力農家の方も優しく、お土産までいただき感謝である。
- ⑦農家との会話の中で、後継者の育成等様々な課題があるようにも感じた。生産者への感謝を忘れることなく、今後も農業ボランティアに参加していきたい。

今後の課題とすべき意見

- ①生産者の知識を簡単に作業前の参加者へ教えてもらえともっと理解が深まると思う。
- ②農家と交流をもっと深めることができれば、より農業への理解が進む。結果、今後のボランティアに参加する人を増やすことができるのでは。
- ③1日少人数のボランティアで本当に農家さんの役に立っているのかが疑問。受入体制の問題もあるが、もっと多くのボランティアを募集してはどうか？

【取組効果と課題】

これまでの取組みを通じて把握した効果と課題は次のとおりである。

《受入農家への効果》

- ①農作業未経験者が多かったものの、農家の労働力不足軽減の一助になっていること。
- ②今後、外部から労働力を確保する際の経験となっていること。

《参加者への効果》

- ①農作業体験を通じて農業者と交流することで農業への理解醸成の一助になっていること。
- ②農作業によりリフレッシュできたこと。
- ③地元農産物を深く知ることができたこと。

《JAへの効果》

- ①ボランティアに関するノウハウを蓄積できたこと。
- ②外部から労働力を確保するための条件等を把握できたこと。

《課題》

- ①ボランティア活動をどのように継続、拡大させていくか。
- ②農業労働力確保にどのように繋げ

ていくか。

- ③農業者の満足度をどのように高めていくか。

【今後の取組み】

「援農ボランティア」は、農家組合員の農作業のお手伝いの一つに過ぎない。農業労働力不足に対応していくために、多様な補助（短期）労働力確保の取組みはもちろんのこと、新規就農者を始めとする担い手の確保・育成や集落営農組織等の連携・強化、農作業の省力化等、幅広い取組みを進めていく。

(中央会 農業対策部)



りんごの「袋はぎ」作業の様子

# JA青森中央会

information

## 会長年頭挨拶

J Aグループ青森四連の阿保直延会長は1月6日、県農協会館で令和2年の仕事始めにあたり、在館の中央会・連合会の職員約350人を前に年頭の挨拶を行った。

阿保会長は「私から言うまでもなく、農業情勢は厳しさを増している。こういう中において、中央会・連合会がいかにして単協の信頼を高めていけるかが重要となる。現場を熟知し、現場目線でJ Aに対して様々な提言やアドバイスを行えるような、真の実力を持った中央会・連合会であれば、これからは信頼を繋ぎ留められない。今年一年間、地に足をつけ、より一層単協から信頼を得られるような中央会・連合会となるよう頑張ってまいりたい」と話した。最後に、農業・J Aグループの発展を祈念して、(株)青森県農協電算セ

ンターの円山雄一朗取締役センター長の音頭でガンバロー三唱を行った。



▲年頭挨拶をする阿保会長

## 令和2年開始へ 県選出国会議員を訪問



▲田名部匡代参議院議員(中央)を囲んで

J A青森中央会の阿保直延会長(県農協農政対策委員会委員長)は1月15日、県選出国会議員を訪問し、令和2年の開始にあたり

本県農業振興へのさらなる理解を求めた。本県産野菜の価格低迷対策や本県産リンゴの輸出強化、農業労働力不足対策などへの早急な対応を求めた。

## HACCPに沿った 衛生管理の徹底へ

J A青森中央会は1月21日、県農

協会館で青森県J A直売所協議会を開いた。県内J A・連合会から11人が参加し、HACCPに沿った衛生管理の取組みなどについて学んだ。平成30年6月に公布された食品衛生法等の一部を改正する法律では、原則として全ての食品事業者に対し、一般衛生管理に加えHACCPに沿った衛生管理に取組むことを求めている。J Aの加工事業や農産物直売所、青年部や女性部等の組合員組織による取組みも対象で、令和2年6月1日からは事業者がそれぞれ衛生管理計画を策定し、実行・記録する必要がある。

会議では中央会農業支援課の長尾浩誠検査役が直売所における工程と管理のポイントなどについて説明。「経過措置期間が来年6月までと、猶予はあるものの、安心して直売所を利用してもらえるよう早期に対応し習慣化してほしい」と話した。また、4月から新たな食品表示制度へ移行するに当たり、青森県保健衛生課食品衛生グループの横山孝仁主幹が添加物や栄養成分の表示方法など、主な変更点について説明した。

## 協同組合理念を再認識

J A青森中央会は1月22日、県農協会館で新採用職員フォロー研修会を開いた。県内J A・連合会から約50人が参加し、協同組合の理念や役割を再確認し、職場でのチームワークや自己管理の必要性などを学んだ。日本協同組合連携機構の文珠正也

主任研究員が協同組合理念やSDGsにおける協同組合の役割について講演し、「協同組合はSDGsの『誰も取り残さない』という原則を既に体現している。169のターゲット(具体目標)について自分たちの事業でサポートできることがないか考え、協同組合に働く職員として役割を果たしてほしい」と話した。

(株)セミナー東北専任講師の大竹辰也さんは「職員ステップアップ講座」と題し講演。参加者は「組織の中でどんな人間になりたいか、どんな仕事をしたいか」をテーマにグループ討議を行った。大竹さんは「組合員にとって何が一番大切か、自分に置きかえて考えることがJ A職員にとって大切」と助言した。



▲グループ討議をする参加者

# JAバンク青森

information

## J A 農業資金説明会を開催

J A バンク青森では、1月20日に十和田市の十和田富士屋ホテルで県南地区の農業機械メーカー・販売店を対象に「J A 農業資金説明会」を開催し、31社から担当者38名が出席した。

本説明会は、農業者・組合員に対する円滑な資金提供を目的に、農業機械メーカー・販売店にJ A バンク青森の農業資金の商品内容を周知しJ A との関係構築・強化を図るため、今回初めて開催したものです。県南地区を皮切りに、2月4日に弘前地区、2月10日に津軽地区の計3会場での開催を予定している。

説明会では、青森県の農業を取り巻く現状などの情勢報告を行った後、



▲自己紹介を行う県南地区J A の融資担当者

設備資金として需要の高い「農業近代化資金」「アグリマイティー資金」「スーパーL資金」について、各商品の資金使途や融資条件、申込みから貸付実行までの流れに加え、青森県農業信用基金協会の保証事業の概要等を説明した。

説明会の最後には、県南地区J A の融資担当者を出席者に紹介した。その後の情報交換会では、県南地区の農業情勢や各社の近況などについて意見交換を行い親交を深めた。

J A バンク青森では、これからも農業者・組合員の要望に沿った農業資金の提案・サポート等を通じて農業所得増大・地域活性化に貢献していく。

## 農林中央金庫青森支店にて 窓口強盗襲撃模擬訓練を実施

農林中央金庫青森支店は、1月16日に2019年度防犯訓練の一環として、青森警察署の協力のもと窓口強盗襲撃模擬訓練を実施した。

本訓練は、当支店の防犯体制の再確認と職員の防犯意識向上を目的に毎年実施しており、今回は、2人組の強盗に扮した警察署員が、窓口来店客役の職員を人質にとり、現金を強奪して逃走するという設定で行われた。

訓練が始まると、強盗役の警察署員の怒号と模擬拳銃の発砲音で緊張が走り、事務所内は一時騒然とした空気に包まれたが、対応にあたった職員が、「非常時任務分担表」に基づいて冷静に対処し訓練は無事終了した。

最後に、青森みなみ交番の樋口薫所長による講評・防犯指導が行われた。

要旨は次のとおり。

○日頃の来店客への声かけや店舗周辺の見回りが、不審者、不審車輛、不審物等の早期発見に繋がるほか、犯人に「防犯意識が高い店舗」という印象を与えることで犯行を思いとどまらせることも期待できる。



▲模擬拳銃を突きつけて現金を要求する強盗犯役

○全職員が、日頃から非常用通報ボタンの設置場所や使い方および通報後の警察とのやり取りの仕方等を共有しておけば、通報の遅延や警察との連携不備といった不測の事態を回避できる。

○事件発生時は、人命を守ることを第一に、お客様と自分の身の安全を守る行動を心掛け、警察が到着するまで無理な行動はしない。

当支店では、引き続き職員の防犯意識向上を図り、支店全体で防犯体制強化に取り組んでいく。

# JA全農あおもり

information

## ベトナムでりんごPRイベント

JA全農あおもりは12月中旬から、ベトナムで青森県産りんご「世界一」「陸奥」「金星」「ふじ」「ジョナゴールド」「王林」6品種の発売を開始した。

21日、ホーチミン市のギガモールにおいて、県産りんごの輸出拡大とさらなる認知度向上・ブランド確立を目的にPRイベントを実施。特設ブースを設置して青森りんごをテーマとした番組を放映しながら、りんごに関するクイズや、フェイスブック、インスタグラム等、SNSに投稿した方へのプレゼントやアクティビティを行った。

メインセレモニーでは、全農あおもり運営委員会の阿保会長が「青森

りんごがベトナムへ輸出され5年目。今年も皆様へお届けできることを、大変嬉しく思っている。本日のイベントを通して、もっと青森りんごファンが増えることを期待したい」と話した。



▲青森りんごをPRする阿保会長ら

また、タレントのリエウ・ハ・チンさんらが、昨年青森で行ったロケでの体験内容や青森りんごの特徴を説明したほか、自身のりんごにまつわるエピソードを交えながら来場者へ産地をPRした。取扱店舗では試食宣伝会などキャンペーンを展開し、最大需要期のクリスマスおよびテト（旧正月）に向け、売り場を構築した。

ベトナムでは、平成19年のWTO加盟と平成23年の輸入規制強化から、日本産りんごの輸出ができなくなつたものの、その後、平成27年に検疫条件が設定され、有袋栽培りんごの輸出が解禁された。

全農あおもりでは、検疫条件が設

定された平成27年当初から輸出に取り組み、年々その量を拡大している。国内外の取引先と連携しながら、現地の消費動向などを調査。売場づくりや消費の掘り起こしを行い、認知度向上に努めてきた。輸出5年目を迎え、さらなる輸出拡大に向けて販売ステージを進め、台湾・香港に次ぐ市場に成り得るよう、今後とも輸出を継続していくこととしている。

また、12月15日に検疫条件の一部改正が行われ、低温処理などの条件をクリアすることで無袋栽培りんごの輸出が可能となったことから、更なる輸出拡大が期待されている。

令和元年産のベトナムへの輸出货量は、6品種350トンを計画している。（前年実績比119%）

## 第14回農林水産物歳末市

JA全農あおもりは12月27から28日の2日間、「第14回農林水産物歳末市」を青森市の県農協会館で開いた。

県産のリンゴ、ナガイモ、ゴボウ、ニンニクやおももり和牛、乳製食品、りんごジュースなどをお買い得価格で販売し、大勢の客で賑わった。特にナガイモが好評で早々に売れ切れとなった。

購入者を対象とした県産品が当た

る抽選会や豚汁無料配布などを実施し、大勢の方に楽しんでいただいた。そのほか、JA青森女性部は、鏡もちや生花などを販売。（株）Aコープ東北は、なまこ等の水産物や、なべ焼きうどん、焼肉や野菜料理に使える「スタミナ源たれ」をそろえた。

歳末市は、県産農畜産物の消費拡大と地域貢献を目的に毎年年末に開いているもの。



▲県産ながいもやごぼうを買い求める買物客

## にんにくの消費宣伝会

JA全農あおもりは12月から、全国のスーパーマーケットでにんにくの消費宣伝会を実施中。令和2年3

月までの展開で、157店舗を予定している。価格低迷を受け、県産にの魅力を発信し消費拡大に繋げる目的。

1月12日、関東エリアで展開するスーパーベルクス30店舗で開かれた宣伝会では、手軽に作れるメニュー「にんにくの丸ごとスープ」を来店客に試食提供した。試食した客からは「にんにくを丸ごと使ったスープは初めて」「調理方法が簡単で嬉しい」などの声があり好評であった。

他店舗では「にんにくホイール焼き」など、簡単に作れるメニューを試食で提供し、紹介する。

元年産の生育は、春先の少雨の影響で小玉が予想されたが、5月下旬からの適度な降雨により肥大が回復した。品質も良好である。令和元年5月から12月の販売単価は前年の同時期と比較して3割ほど安い。



▲試食提供で県産にんにくの魅力を発信する

## にんにくフォーラム

J A全農あおもりは1月16日、藤崎町のJ A津軽みらい常盤基幹支店で「令和元年度にんにくフォーラム」を開き、生産者など関係者ら約140人が出席。昨年9月の共進会で選出した7名を表彰した。



▲表彰を受ける佐藤さん

最優秀賞・農林水産大臣賞として表彰された佐藤誠さん（J Aつがるにしきた）は、栽培のポイントについて「優良種苗を毎年購入、2年増殖した後3年目に販売することで種苗の健全性を維持している」「スプリンクラー設備を活用し、干ばつ時のかん水を重点的に行っている」などと紹介した。

共進会は、県内9 J Aから109点が出品され、全体の大小や形状、乾燥や表皮の状態などを審査し選出

した。

そのほか、佐賀大学吉賀豊司准教授から重要病害虫対策の重要性について講義を受けた。イモグサレセンチュウの防除対策として「根絶は難しいため、健全なほ場と種子の確保で予防することが必要」「収穫時の根や茎の圃場外への除去や、土壌消毒・輪作等により、密度を抑える工夫が大切」などと学んだ。

フォーラムは、にんにく生産量日本一の産地の維持・拡大を目的とし、生産者および関係者の意識向上を図るために毎年開催しているもの。

最優秀賞以外の入賞者は次の通り（かっこ内はJ A名）

- ◇優秀賞・青森県知事賞▽熊野雅人（十和田おいらせ）
- ◇優良賞▽石澤光（津軽みらい）▽久野尚樹（十和田おいらせ）▽東寛貴（十和田おいらせ）▽中村信男（ゆうき青森）▽馬場恵美（おいらせ）

## 青森県ぶどう立木品評会 表彰式

青森県ぶどう対策協議会とJ A全農あおもりは1月20日、青森市の県農協会館で「令和元年度青森県ぶどう立木品評会表彰式」を開いた。

県内から173点の出品があり、最終審査を経て、特賞と農林水産大

臣賞は、工藤満さん（J Aぶどう生産販売対策協議会、スチューベン）が獲得した。

表彰式では、青森県産業技術センターりんご研究所の内藤誠県南果樹部長が「果房は大きさと形が揃い、着色・果粒肥大も優れ、品種本来の特性を十分発揮していた。着房数を幾分少なく抑え、高品質生産に向けての強い意欲がうかがえた」と講評した。



▲表彰を受ける受賞者ら

表彰式終了後、青森県農業改良普及グループの港大輔主幹が「近年の全国のぶどう栽培動向とシャインマスカット」について講演を行った。出席者は、販売関係者からの意見として「糖度が高く見た目がきれいな

のが基本」「青森県産と一目で分かる房の形状を決めることが大事」などと学んだ。

他の特賞受賞者は次の通り。(かつこ内は所属、品種名)

▽青森県知事賞Ⅱ齋藤恵美子 (J Aぶどう生産販売対策協議会、スチューベン) ▽農林水産省生産局長賞Ⅱ沖田勝裕 (南部地方ぶどう協会、キャンベル・アーリー) ▽東北農政局長賞Ⅱ石井幸生 (南部地方ぶどう協会、キャンベル・アーリー) ▽青森県議会議長賞Ⅱ上平記智男 (南部地方ぶどう協会、ポートランド) ▽全農青森県本部長賞Ⅱ中野栄基 (南部地方ぶどう協会、オリエンタルスター)

### 社員食堂で期間限定メニューの展開

J A全農あおもりは青森県産やさいの新たな宣伝の取り組みとして、社員食堂でのPRを進めている。首都圏近郊で実施する。

1月20から22日、東京都港区新橋の新橋住友ビルの共同社員食堂で、期間限定メニューを展開。メニューに使用する青森県産ながいも、ごぼうは全農あおもりが提供した。

限定メニューは「長芋のグラタン」「甘辛豚ごぼうそば・うどん」

「青森味わいご膳」の3種類。3日間で248人が注文した。社員から



▲長芋のグラタン



▲甘辛豚ごぼうそば



▲青森味わいご膳

は「青森の特産品が食べられて嬉しい」「美味しかったので、家でも作ってみたい」などと話していた。

1月28から29日は、神奈川県川崎市日本電気株式会社 (NEC) 玉川事業場で実施する。

全農あおもり担当者「生産者の皆様が丹精込めて生

産した県産やさいを少しでも多くの人に味わってもらい、美味しさを実感してもらいたい。特に今年は厳しい販売環境が続いており、首都圏における県産やさいの存在感を高めるため、様々な宣伝手法を実施したい」

と話す。

### 受験生応援ポスターを作成

J A全農あおもりは受験シーズンに向けて、受験生応援ポスターを作成。「ながいもを食べて粘り強く合格を勝ち取ってほしい」とエールが込められている。



▲受験生応援ポスターでエールを送る

青森県産やさいの新たな宣伝の取り組みとして、始めたもの。

全国の量販店で試食宣伝を実施し、ポスターの掲示で県産やさいのPRを行う。1月から3月まで483店舗 (昨年実績373店舗) を計画している。

作成にあたった全農あおもり担当

者は全国の受験生に向けて、「ながいもの粘りのように最後まで諦めないで粘って欲しい。このポスターを見て、元気を出してもらえたら嬉しい。簡単にできるところごはんがおすすめ」と話す。

全農あおもりは、ながいもと同様に、にんにく・ごぼうの試食宣伝会も全国の量販店で積極的に実施し消費拡大につなげていく。

### イベントのお知らせ 「あおもりミルクキャンペーン」

J A全農あおもりと青森県牛乳普及協会は、2月18日、イオンモール下田で「モーっと！牛乳を飲もう！あおもりミルクキャンペーン」を実施する。10時から16時まで。

県産牛乳の試飲やオリジナルクッキーの試食、素敵なプレゼントが当たるアンケート抽選会に加え、R A Bラジオの公開生放送を行う。

問い合わせは、青森県牛乳普及協会、電話017-729-8631。

とちゅうちゃんも  
対決しよう！  
ミルクだよ！  
あおもりで





# JA共済連青森

information

## 令和元年度 JA共済全国小・中学生 書道・交通安全ポスター コンクール表彰式開催

全共済全国本部が主催する、書道・交通安全ポスターコンクールの全国表彰式が1月24日、東京都平河町のJA共済ビルで開催された。

同コンクールは、書写と美術を通じて、次世代を担う小・中学生に助け合い（相互扶助）や思いやりの精神を伝えるとともに、交通安全の意識を高めてもらうことを目的に、今年度で書道が第63回、交通安全ポスターが第48回を迎えた。書道は、全都道府県より条幅の部、半紙の部あわせて136万8392点の作品、交通安全ポスターは、各都道府県よ

り15万4996点の応募があり、歴史・応募作品ともに日本を代表する大きなコンクールになっている。

本県から書道・半紙の部で「文部科学大臣賞」に選ばれた、佐々木胡春さん（黒石市立黒石小学校・6年）が出席し、家族や全共済役員が見守る中、賞状と副賞（目録）が授与された。

※本県から大賞受賞の荣誉に輝いた受賞者から次のとおり喜びの声が寄せられた。

### 「無限の力」

黒石市立黒石小学校6年

佐々木 胡春

### 「継続は力なり」

このような大きな書道コンクールで素晴らしい賞をいただき、本当にありがとうございます。毎年夏休みには、JA共済の課題に取り組んできたので、小学校6年生という節目の年にこんなにも大きなごほうびをいただくことができ、まるで夢のようです。作品が仕上がるまでは先生から何度も直されましたが、最後まであきらめずに書くことの大切さを学びました。「継続は力なり。頑張って続けることが大事。」母によく言われる言葉です。

いつも熱心に指導して下さいる先生



▲文部科学大臣賞を受賞し表彰される  
佐々木 胡春さん



▲受賞された皆さん

や、全力で応援してくれる家族に感謝しながら、さらに上を目指して中学生になっても頑張ります。

## JA共済連青森に交通死亡事故抑 止功労団体感謝状が贈呈される

JA共済連青森に1月20日、青森国際ホテルで青森県警察本部より感謝状が贈呈された。これは、JA共済連青森がこれまでに様々な交通事故対象活動を実施し、交通事故抑止活動を行ってきた功労を称えたもの。

昨年、青森県内で発生した交通事故は発生件数、死者数、負傷者のいずれも前年度より減少し、特に死者数については、全国統一の交通事故統計方法となった昭和41年以降最小の37人であった。第十次青森県交通安全計画で掲げている交通事故死者数を38人以下に抑止するという目標も達成している。

本年も交通事故のない安全な青森県の実現を目指して、交通事故対策活動を青森県警察本部等と協力し、実施していきたい。



▲感謝状を受けとる福士雅己本部長

# 平成30年農業産出額

＝ 青森県が15年連続で東北1位 ＝

青森県の農業総産出額の全国順位が、8位から7位へUP↑

↓ 平成30年農業総産出額及び生産農業所得（農林水産省）

[https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/nougyou\\_sansyutu/](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/nougyou_sansyutu/)

農林水産省大臣官房統計部は、平成30年農業総産出額を公表しました。

## 全国の概要

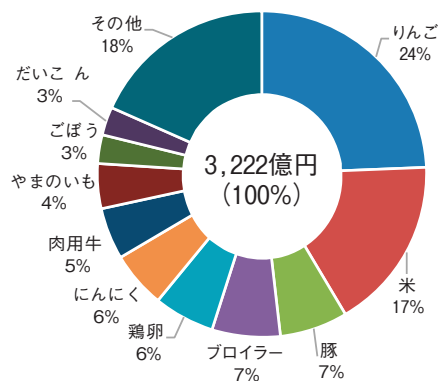
全国の農業総産出額の概要は、近年、米、野菜、肉用牛等の需要に応じた生産進展等により増加傾向で推移し、3年連続での増加となりましたが、葉茎菜類、豚、鶏卵等の生産量増加による価格低下等により、前年に比べ2,184億円減少し、9兆558億円（対前年増減率2.4%減少）となりました。

## 青森県の概要

青森県の平成30年の農業産出額の概要は、前年に比べ119億円増加の3,222億円となり、4年連続での3,000億円超えとなりました。

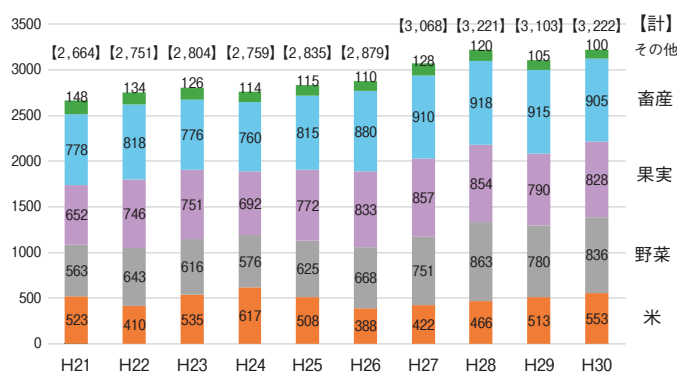
この結果、全国順位は、前年の8位から7位に上昇し、東北での順位は15年連続で1位となりました。品目ごとに見ると、りんごが784億円（前年比35億円増）、米

青森県の農業産出額上位10品目



順位	品目	30年	29年	増減
1	りんご	784	749	35
2	米	553	513	40
3	豚	216	236	-20
4	プロイラー	216	211	5
5	鶏卵	193	208	-15
6	にんにく	180	190	-10
7	肉用牛	164	159	5
8	やまのいも	143	153	-10
9	ごぼう	93	81	12
10	だいこん	90	74	16
-	その他	590	529	61
	合計	3,222	3,103	119

青森県の農業産出額の推移（単位：億円）



が553億円（同40億円増）といずれも増加しています。

連絡先  
東北農政局青森県拠点  
地方参事官室  
TEL 017 (775) 2151



# 経営の窓口

## 持続可能なJA経営基盤の確立・強化に向けて（農業関連施設等の整備・再編によるJA経営基盤の強化）③

### 1. JA経営基盤強化の背景

現在、JAの経済事業拠点や支店等の老朽化が顕在化してきており、多くのJAで新規設備投資や既存施設の統廃合等の検討が必要となっている。

第28回JA青森県大会において「組織・経営基盤の強化（JAグループ青森の組織整備）」が決議されており、その実施事項としても「自己改革の実践を通じた事業伸長と将来見通しをふまえた支店、事業所、農業関連施設等の整備・再編によるJA経営基盤の強化」が挙げられている。

### 2. 「事業運営や組織整備」の検討状況に関する調査①について

第28回JA青森県大会における決議を実践するため、本会では平成30年度に、JAでの検討状況等を把握するため、総合JAを対象に表題の調査（事業効率の取組み、JAの枠を超えて機能発揮すべき事項等について質問）を実施した。

その中で、「JAの枠を超えて機能発揮すべき事項」として「施設の有効利用」「広域出荷体制」「統一販売戦略」との回答が多くみられた。

### 3. JA施設情報調査の実施

#### （1）調査の目的

本会では、前述2. について、早急な検討・実施事項とするための基礎情報として、令和元年7月に施設情報調査を行い、9月末に結果をとりまとめた。

#### （2）調査対象

今回の調査は、施設の取得価額（土地、建物、機械装置等合計）1億円以上の施設を対象とした。また、信用共済事業のみの支店は、JAバンクにおいても同様の取組みをしていることから対象外とした。

### 4. JA施設情報調査結果

#### （1）集計結果

- ① 9JAより、農業関連142施設、購買関連30施設について回答を得た。
- ② 農業関連施設、購買関連施設ともに老朽化が進んでおり、耐用年数を120%以上経過した施設は、農業関連では57施設、購買関連では9施設となっている。
- ③ 農業関連の37施設が稼働率70%以下となっており、収支改善のための稼働率向上も課題となっている。

#### （2）JA間の施設共同利用

- ① JA間の施設共同利用検討も調査目的としていたが、受託可能性のある施設は農業関連で6施設と想定以上に少ない結果となった。
- ② 対象となる施設が少なかつたことについては、ア. 今回の調査においては、調査期間の制約があり、常勤役員との協議ができず、職員段階では共同利用の判断ができなかったことイ. 行政による補助金を活用した施設も多いため、他の市町村からの農産物の受入が、補助金の要綱に違反する恐れがあること等が原因と考えられる。

(単位：件)

	農業関連施設数	購買関連施設数
調査対象施設数	142	30
うち耐用年数90%経過	89	15
うち耐用年数120%経過	57	9
うち廃止予定	4	3
うち稼働率70%以下	37	---
うち受託可能性あり	6	---
うち委託可能性あり	3	---

### 5. 各JAでの取組み（お願ひ）

- ① 今回の調査により、今後10年間のファシリティーコストデータ（賃借料、税金、減価償却費、

水道光熱費など施設の運営維持にかかる経費）を個別に把握し、将来発生する可能性のあるコスト（修繕費/資本的支出、環境整備費、建替・更新費）も見積もった。よって、各JAにおいては、収支状況と勘案し、他JAの施設情報を比較検討し、うえで、経営課題を抽出し、共同利用も視野に入れた改善基本方針を策定し、事業計画に反映願いたい。

### 6. 今後の本会の取組み

- ① JA間共同利用の促進・仲介  
今後、各JAから共同要望があった場合は、代理でのヒアリングも実施する。
- ② 経営基盤強化の優先事例の紹介  
これまで研修会等の場において、全国の優良事例を紹介してきたが、今後も引き続き全国の優良事例を紹介していく。

本会だけでは、JAからの要望に対処できない事項も想定されることから、必要に応じJA全農等の協力を仰ぎながら、引き続きJAの経営基盤強化を支援してまいりたい。

(中央会 経営対策部)

# 農政広報通信

## 予算案について

TPP11が平成30年12月30日に発効し、日欧EPAが平成31年2月1日に発効した。日米貿易協定については、非常に大規模な貿易協定にもかかわらず、短時間の交渉の後、日米2国間の最終合意を受け、日米貿易協定の承認案が先の臨時国会において可決成立し、令和2年1月1日に発効した。

わが国の農林水産業に非常に大きな影響を与える貿易協定が次々発効されていく中、政府の国内対策が大きな鍵となっていく。

### 1. 政府・与党の動向

- ① 政府は、さらなる防災・減災対策や景気を下支えるため、令和元年12月5日に「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」を閣議決定し、その実行のための令和元年度補正予算（総額4兆4,722億円）を12月13日閣議決定した。
- ② 農業関係の補正予算には、12月5日に改訂された「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づく国内対策や、12月10日に改訂された「農林水産業・地域の活力創造プラン」にもとづく生産基盤強化対策などが盛り込まれた。
- ③ 令和2年度当初予算は、医療や年金などの社会保障費の増加を受け、過去最大の102兆6,580億円（農林水産関係…2兆3,109億円）で、12月20日に閣議決定された。

### 2. 令和元年度補正予算の主な内容

- 【総額 5,849億円】
- (1) 「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づく施策の実施（3,250億円）  
大規模な貿易協定に対応する国内対策等に充てる目的で条件緩和措置などが盛り込まれている。
  - ① 農林水産業の担い手の確保・育成、経営基盤強化緊急対策（64億円）  
就職氷河期世代への就職準備資金の交付、50代も対象とする研修実施等を支援。
  - ② 産地生産基盤パワーアップ事業（348億円）

- ④ 自民党農林部会等では、令和元年度補正予算について12月4日より議論を本格化し、12月12日、近年では最大となる総額5,849億円の予算案を了承した。  
令和2年度当初予算については、12月18日に大臣折衝の結果等を聴取し、予算案を了承した。
- ⑤ 令和2年1月20日召集された第201回通常総会に令和2年度予算案が提出された。

### 3. 令和2年度当初予算の主な内容

- 【総額 2兆3,109億円】
- (1) 「農林水産物・食品の政府一体」となった輸出力強化と高付加価値化
  - ① 農林水産物・食品の政府一体となった輸出力強化（84億円）

- 流通業者等の施設整備などとともに、中小・家族経営基盤の継承円滑化、たい肥の活用による全国的な土づくり等を支援。
- ③ スマート農業技術の開発・実証プロジェクト（72億円）  
AI等の先端技術を活用し生産現場の課題解決のため、園芸作物・畜産等実証品目の拡大を行い、中山間地域等への導入実証支援。
  - ④ 和牛・乳用牛の増頭・増産対策（243億円）  
輸出拡大のための和牛増産・酪農生産基盤強化等の支援および施設再編整備を総合的に支援。
  - ⑤ 畜産クラスター事業の改善（409億円）  
中小農家の規模拡大の後押しのため飼養頭数等規模要件を緩和、支援。
  - (2) 災害からの復旧・復興と安心・安心（2,144億円）  
① 強い農業・担い手づくり総合支援交付金（175億円）  
② CSF・ASF等への対策（134億円）  
③ 「農林水産業・地域の活力創造プラン」に基づく施策等の推進（460億円）  
畑作構造転換事業等に充てる予算が盛り込まれた。

### 4. 今後の動向

今国会の動向を踏まえながら、本県農業の生産基盤強化と農家組合員の生産力拡大等に向けて、関係機関と連携し取組みを進めていく。

(中央会 農業対策部)

- (2) 「スマート農業」の実現と強い農業のための基盤づくり
- ① スマート農業総合推進対策事業（15億円）
- ② 農業農村基盤整備（競争力強化・国土強靱化）（4,433億円）
- ③ 強い農業・担い手づくり総合支援交付金等（230億円）
- ④ 品目別の生産振興対策（やさしい、果樹、茶・薬用作物、花き）（89億円）
- ⑤ 野菜価格安定対策事業（155億円）
- (3) 担い手への農地集積・集約化による構造改革の推進
- ① 「人・農地プラン」の実質化と農地中間管理機構等による担い手への農地集積・集約化の加速化（212億円）
- ② 農業人材力強化総合支援事業（213億円）
- (4) 水田フル活用と経営所得安定対策の着実な実施
- ① 水田活用の直接支払交付金（3,050億円）
- ② 畑作物の直接支払交付金（2,163億円）以上の項目のほか、「食の安全・消費者の信頼確保（143億円）」・「農山漁村の活性化（1,418億円）」等が盛り込まれている。

# 令和元年度

## 職員資格認証試験結果の概要

中級合格者が増加したものの、初級合格者が減少、  
初級の全科目・上級2科目が全国平均点を下回る

### 1. 受験状況と試験結果

今年度の職員資格認証試験の結果がまとまった。

概要は、下表「種別」別試験結果概要のとおりである。

各種別の主な特徴として、

(1) 初級では、すべての科目において全国平均点を下回り、合格者も63人と前年度(91人)より28人減少となった。合格率も53・7%と前年度(66・9%)より13・2ポイント低下となった。

(2) 中級では、すべての科目において県平均点が全国平均点を上回り、合格者も87人と前年度(63人)より24人増加した。合格率も60・4%で前年度(58・3%)より2・1ポイント上昇した。

(3) 上級では、2科目において県

平均点が全国平均点を下回り、合格者数は43人と前年度(39人)より4人増加した。合格率は55・8%と前年度(53・4%)より2・4ポイント上昇した。

(4) 初・中・上級を合わせた受験者数は、329人と前年度(317人)より12人増加した。合格者数193人は前年度と同数である。

### 2. 一層の受験督励と向上心ある学習を

今年度は、初級のすべての科目、上級の2科目で県平均点が全国平均点を下回った。受験者には合格を見据えた計画的な学習が求められる。来年度に向けた自己学習を早めに行い、十分な受験対策をすたうえで試験に臨み、今年度以上の結果を期待したい。

また、JAにおいては、職員の資

質・能力向上を目的とした人材育成の観点から、認証試験受験の督励に

引き続きつとめていただきたい。

(JA青森中央会 経営対策部)

### ○「種別」別試験結果概要

#### ○初級

#### 「科目別平均点等」

	本県平均	全国平均	最高点	最低点	取得者(人)	60点以上
J A 基礎	69.3	71.0	98	25	65	
農業情勢基礎	69.0	69.8	98	25	62	
J A 簿記基礎	67.0	68.8	100	12	60	

#### 「受験者数等」

	R元	H30	R元-H30
受験者数(人)	108	136	△ 28
合格者数(人)	63	91	△ 28
合格率	53.7%	66.9%	△ 13.2%
科目合格者数(人)	16	24	△ 8

#### ○中級

#### 「科目別平均点等」

	本県平均	全国平均	最高点	最低点	取得者(人)	60点以上
J A 事業論・協同組合論	63.0	60.6	98	32	85	
農協法	68.8	61.6	100	22	92	
J A 簿記会計	64.3	56.1	99	22	81	

#### 「受験者数等」

	R元	H30	R元-H30
受験者数(人)	144	108	36
合格者数(人)	87	63	24
合格率	60.4%	58.3%	2.1%
科目合格者数(人)	26	22	4

#### ○上級

#### 「科目別平均点等」

	本県平均	全国平均	最高点	最低点	取得者(人)	60点以上
J A 経営管理・農業協同組合論	64.0	65.2	92	33	48	
J A 財務・管理会計	61.4	57.6	100	20	40	
J A 人事管理	66.8	67.0	99	30	46	

#### 「受験者数等」

	R元	H30	R元-H30
受験者数(人)	77	73	4
合格者数(人)	43	39	4
合格率	55.8%	53.4%	2.4%
科目合格者数(人)	18	12	6

種別	J A名	氏 名
認 証 初 級 (63人)	お い ら せ	林 幸 多
	お い ら せ	李 沢 澄 恵
	お い ら せ	中 村 結 沙
	お い ら せ	久保田 篤 実
	お い ら せ	遠 島 詩 音
	八 戸	坂 本 咲 月
	八 戸	舘 悠 真
	八 戸	渡 辺 尚 輝
	八 戸	木 村 晃 大
	八 戸	坂 本 洋 介
	八 戸	山 田 大 地
	八 戸	舘 俊 秀
	八 戸	畑 中 喜 浩
	八 戸	古 戸 卓
認 証 中 級 (87人)	青 森	成 田 夕 人
	青 森	安 田 真 莉 菜
	青 森	清 野 紀 香
	青 森	逢 坂 美 海
	つがるにしきた	安 田 彩 乃
	つがるにしきた	齊 藤 翼
	ごしょつがる	越後谷 貴 彦
	ごしょつがる	田 中 光 春
	ごしょつがる	小 関 枝 里
	ごしょつがる	外 崎 貴 敏
	ごしょつがる	藤 森 誠 紀
	ごしょつがる	工 藤 拳 斗
	ごしょつがる	十 川 文 乃
	つがる弘前	對 馬 雄 大
	つがる弘前	福 坂 翔
	つがる弘前	奈 良 美 穂
	つがる弘前	三 上 裕 士
	相 馬 村	齋 藤 玲 菜
	津 軽 み ら い	石 岡 里 穂
	津 軽 み ら い	原 田 瑞 穂
	津 軽 み ら い	赤 石 智 也
	津 軽 み ら い	丹 代 和 希
	津 軽 み ら い	工 藤 綾 乃
	津 軽 み ら い	齋 藤 美 優
	津 軽 み ら い	菅 野 徳 嗣
	津 軽 み ら い	原 田 諭
	十和田おいらせ	布 施 麻 里 子
	十和田おいらせ	石 坂 愛
	十和田おいらせ	沼 村 拓 朗
	十和田おいらせ	櫻 田 麻 衣 子
	十和田おいらせ	久 野 真 季
	十和田おいらせ	蛭 名 航 洋
	十和田おいらせ	矢 吹 悠
	十和田おいらせ	下 田 中 永 一
十和田おいらせ	柴 崎 恵 美	

種別	J A名	氏 名
認 証 初 級 (63人)	青 森	成 田 彩 人
	青 森	木 村 恭 也
	青 森	佐々木 由 香
	青 森	齊 藤 彩 夜 美
	青 森	阿 部 浩 也
	青 森	松 江 和 大
	青 森	丸 尾 育 與
	つがるにしきた	小 山 内 聖 羅
	つがるにしきた	白 戸 龍 義
	つがるにしきた	須 藤 瑠 莉 菜
	つがるにしきた	工 藤 美 咲
	つがる弘前	小 山 内 七 海
	つがる弘前	渋 谷 悠 斗
	つがる弘前	齊 藤 安 南
	つがる弘前	世 永 卓 也
	つがる弘前	三 浦 湧 太
	つがる弘前	丸 山 美 香
	つがる弘前	常 田 翼
	つがる弘前	佐々木 志 步
	津 軽 み ら い	小 田 桐 玲
	津 軽 み ら い	佐 藤 力 也
	津 軽 み ら い	一 戸 步
	津 軽 み ら い	外 崎 瑞 步
	津 軽 み ら い	飛 嶋 竜 太
	津 軽 み ら い	小 関 七 海
	津 軽 み ら い	齋 藤 匠 杜
	十和田おいらせ	八 橋 知 弘
	十和田おいらせ	千 葉 拓 人
	十和田おいらせ	二ツ森 拓 也
	十和田おいらせ	山 白 聡
	十和田おいらせ	安 井 和 貴
	十和田おいらせ	漆 畑 克 気
	十和田おいらせ	苦 米 地 栄 明
	十和田おいらせ	澤 口 隆 秀
	十和田おいらせ	平 舘 信 弥
	十和田おいらせ	畑 山 真 紀 子
	十和田おいらせ	工 藤 英 明
	十和田おいらせ	沼 山 聡
	十和田おいらせ	平 野 央 介
	十和田おいらせ	谷 坂 咲 子
	十和田おいらせ	小 山 田 侑 平
ゆうき青森	柴 田 良 一	
ゆうき青森	村 居 緋 里	
ゆうき青森	久保田 恵	
ゆうき青森	野 田 頭 真 一	
ゆうき青森	疍 崎 友 和	
ゆうき青森	山 田 佳 奈 子	
お い ら せ	杉 山 愛	
お い ら せ	種 市 は る か	

合格おめでとうございます。

種別	J A名	氏 名
認証中級 (87人)	全農あおもり	中 川 洋 平
	全農あおもり	成 田 建 生
認証上級 (43人)	中 央 会	木 村 真 大
	青 森	寺 島 真 也
	青 森	小 友 彩 乃
	青 森	鍵 谷 美 圭
	つがるにしきた	秋 元 洸 洋
	つがるにしきた	吉 川 信 二
	つがるにしきた	笹 森 誠
	ごしょつがる	藤 田 貴 志
	つがる弘前	工 藤 理 恵
	つがる弘前	安 部 圭 悟
	つがる弘前	新 谷 順 子
	つがる弘前	船 水 真紀子
	つがる弘前	藤 田 重 広
	つがる弘前	工 藤 健太郎
	津軽みらい	佐 藤 優 志
	津軽みらい	齋 藤 巡一郎
	津軽みらい	三 浦 啓 太
	津軽みらい	成 田 祐 介
	津軽みらい	小 原 健太郎
	津軽みらい	木 村 聖
	津軽みらい	小 野 まりや
	津軽みらい	古 川 覚 士
	津軽みらい	伊 藤 嘉 信
	十和田おいらせ	田 中 珠 美
	十和田おいらせ	玉 手 哲
	十和田おいらせ	佐々木 龍
	十和田おいらせ	戸 舘 卓 士
	十和田おいらせ	野 村 和 也
	十和田おいらせ	高 村 栄見子
	十和田おいらせ	蛭 名 瞳
	十和田おいらせ	金 見 達 也
	十和田おいらせ	上明戸 志 穂
	ゆうき青森	阿 部 しおり
	ゆうき青森	沢 尾 真由子
	ゆうき青森	坂 本 奈々
	おいらせ	斗 澤 彩 夏
	おいらせ	福 田 志 帆
	おいらせ	天 摩 大 輔
	おいらせ	川 村 一 真
	八 戸	市 澤 鮎 美
	八 戸	志 村 明寿香
	八 戸	在 家 真 弓
	八 戸	差ヶ久保 寿
共 済 連	大 水 伸 彦	

種別	J A名	氏 名
認証中級 (87人)	十和田おいらせ	畑 中 麻 希
	十和田おいらせ	加賀沢 友 乃
	十和田おいらせ	漆 畑 圭 織
	十和田おいらせ	中野渡 あゆみ
	十和田おいらせ	田 中 健
	十和田おいらせ	佐々木 卓 也
	十和田おいらせ	三 浦 里 美
	十和田おいらせ	野 村 晋 也
	十和田おいらせ	名古屋 幸 樹
	十和田おいらせ	板 井 玲 美
	ゆうき青森	吹 越 哲 也
	ゆうき青森	柴 崎 里 美
	ゆうき青森	船 橋 侑 斗
	おいらせ	阿 部 貴 秀
	おいらせ	田 鎖 靖 久
	八 戸	工 藤 果 咲
	八 戸	夏 坂 礼 奈
	八 戸	成 田 直 史
	八 戸	高 坂 博 樹
	全農あおもり	鶴 谷 真 央
	全農あおもり	太 田 健 朗
	全農あおもり	三 上 功 多
	全農あおもり	平 舘 慶 徳
	全農あおもり	上 平 章 弘
	全農あおもり	千 田 佳 央
	全農あおもり	金 澤 展 嗣
	全農あおもり	向 井 勝 美
	全農あおもり	成 田 誠
	全農あおもり	相 馬 洋 一
	全農あおもり	秋 元 陽 貴
	全農あおもり	西 口 康 朗
	全農あおもり	佐々木 将 志
	全農あおもり	渡 邊 塁 人
	全農あおもり	佐々木 勉
	全農あおもり	今 沙 織
	全農あおもり	岡 田 大 佑
	全農あおもり	岡 村 達 也
	全農あおもり	中 谷 貴 昌
	全農あおもり	石 塚 照 崇
	全農あおもり	梶 智 光
	全農あおもり	木 立 将 志
	全農あおもり	長谷川 欣 哉
	全農あおもり	加 藤 優 和
全農あおもり	奈良岡 寛 久	
全農あおもり	田 村 一	
全農あおもり	宮 本 昌 浩	
全農あおもり	前 田 康 宏	
全農あおもり	川 村 光 博	
全農あおもり	佐 藤 陽 子	



# 輝き

JA全農あおもり  
やさいパッケージセンター  
とまべち ゆうせい  
苫米地 勇誠 さん

●プロフィール  
平成29年4月から勤務 五戸町出身 24歳

## 働くきっかけは？

実家が小規模ながらやさいを始めとして、りんごや米をやっていたことや、学校の授業で農業体験をするなど、幼いころから周囲に農業があり、将来はこの業界に携わりたいと思ったのがきっかけです。

## 業務内容を教えてください。

JAから原料を仕入れ、加工・パックをして市場に販売をする、直販の業務に携わっています。その中で、原料・製品の管理や施設管理、事務業務を主に担当しています。

## 働いた感想は？

計画・見通しを立てて仕事をするのが大切だと感じました。販売先からの予想外の発注数増量により、パック製品の包材を不足させてしまったことがあったため、今後の発注数量の増減や、資材の納品までの期間を見通し、欠品をすることがないように努めています。

## 仕事をする上で、日頃心がけていることは？

内部、外部問わず人と接するときは、丁寧な対応をするよう心掛けています。

## 特技・趣味は？

人の誕生日を覚えるのが得意です。

## あなたが自慢できることは？

特茶を飲んだ本数です。ジャスミン味がおすすです。

## 将来の夢は？

定年後、五戸にラーメン屋を開きたいです。

## 女性部が地元産大豆で作った「木綿豆腐」



女性部が作った木綿豆腐

JA津軽みらい女性部みなみ支部田舎館班加工部会では同村で栽培された大豆「おおすすめ」を使用し、「木綿豆腐」の製造・販売を行っている。1989年、当時の部会員らが地元で栽培された大豆を使った商品を作りたいと考え、作り続けている。食感がよく、濃厚な大豆の風味と甘味が口に広がる。食べ応えもあり、みそ汁の具や湯豆腐、揚豆腐といった料理としてもお勧めだ。同加工部会の葛西由賀子部会長は「昔からのおいしさを守って作っている。自信をもって販売しているので多くの人に食べていただき、地元農産物のおいしさを知ってほしい」と話す。木綿豆腐は1パック100円（税込）、同JA田舎館基幹グリーンセンター（12月～4月）や女性部が運営する直売所「ふれあい市」（5月～11月）で販売している。



問い合わせ先：JA津軽みらい 田舎館基幹グリーンセンター  
電話：0172（58）3638  
記事提供：JA津軽みらい

## 催事カレンダー

開催日時		JA名	イベント名	開催場所	問合せ先	
月日	時間				部署	電話番号
2月18日	10時～16時	JA全農あおもり	モーっと牛乳を飲もう！あおもりミルクキャンペーン2020	イオン下田	畜産酪農課	017-729-8650
3月10日～11日	10時～17時	JA全農あおもり	JAグループ国産農畜産物商談会	東京国際フォーラム	企画管理課	017-729-8615



## みりよく発信

### 産地に貢献できる削蹄師目指す 十和田市 下久保 勇樹さん



削蹄師として産地に貢献したいと  
意気込む下久保さん

「牛の育成に爪の管理が重要なんです」と話す十和田市深持の下久保勇樹さんは、繁殖農家を継いで5年目になる。

削蹄師を目指し修行中で、J A肉用牛ヘルパー部会の一員として、削蹄のほか、市場への運搬、乾草の運搬などを引き受ける。畜産農家の高齢化が進むなか、若き担い手として和牛産地を支えている。父親と一緒に黒毛和種の親牛13頭、子牛9頭を育てているほか、水稲5ヘクタールを栽培し、牧草の刈り取り作業などを請け負っている。削蹄は今年春から同部会の先輩農家に同行し、技を間近で見て学んでいる。牛の重量は500〜600kgもあり、柵内に入れるのも大変な重労働。同部会のメ

ンバー7人と1日に30頭、年間では親牛・子牛合わせておよそ1,600頭の削蹄をする。

牛によって爪の形も違い削蹄は繊細な作業になる。ミリ単位で伸びた爪の表と裏を切り、牛にとって快適な形に揃える。「牛は快適でストレスのない環境で育つからこそ、質の高い牛肉や牛乳を作りだす。産歴も短くなる」と話す。下久保さんは「自分が育てる子牛の質を上げて、頭数を増やしていきたい。削蹄師としても産地に貢献し、地元ブランド牛肉『十和田湖和牛』の名を高めていきたい」と意気込む。

(日本農業新聞・青森県版12月5日掲載)

## 編集 後記

中国で発生した新型コロナウイルスによる肺炎が広がっており、日本国内でも数名の感染者が確認されている。治療薬やワクチンも無く、今後の広がり心配されるようだ。

注射が嫌いなため、ここ数年インフルエンザの予防接種すらしていないので感染したらどうなるのだろうか?とポーと思いつながら連日のニュースで情報をチェック。

話は変わるが今一番の関心は天気のことである。新海誠監督の「天気の子」が全米で「スターウォーズ」を抜き2位の快挙とネットで情報が流れているが、天気は天気でも今年の本県の暖冬は異常である。豪雪都市の青森市の積雪は、例年であれば50センチ以上あるはずなのにたった5センチと路面に見慣れた雪が無いのだ。

気象庁の2月の一か月間予報でも高温傾向が続くとのことこのままだと、歴史を塗り替える令和年となりそうだ。

本県の基幹農業であるりんご農家、コマ農家、畑作・野菜農家に大きな影響が出ないことを切に思う限りだ。

皆様、仏様、ごっかよろしくお願ひします。  
(公)



## ホームページアドレス

- J A青森中央会 <http://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>  
イベントの様子、歳時記、産直・J A情報などをご覧ください。
- J Aバンク青森 <http://aomori.jabank.org/>  
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のJ Aバンクへのリンク等をご覧ください。
- J A全農あおもり <http://www.am.zennoh.or.jp/>  
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- J A共済連青森 <http://www.jakyosai-aomori.jp>  
J A共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

# 「食」と「農」 都市と農村 つなげる紙面

役立つ、得する、  
楽しい情報が満載

●購読のお申し込みは JA へ  
購読料 1カ月 2,623円(税込)

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS  
**日本農業新聞**  
<http://www.agrinews.co.jp>

協同の輪を広げ 自己改革を進めよう JAグループ情報共有運動



3つの特集 “いま”知りたいテーマの特集が毎月3つ



健康 健康寿命100歳めざして



手芸 手軽に作れて暮らしに役立つ!



料理 毎日のごはん作りの強い味方



ぜひご購入ください!

年6回  
別冊付録が  
付きます



読みたい記事がきっと見つかる!!

家の光

食と農から始まる。  
JAグループのファミリーマガジン  
定価(税込)  
●普通月号 629円 ●付録月号(1・4・5・7・9月号) 922円 ●家計簿付き12月号 1,027円

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ

JAグループ 家の光協会

〒162-8448

東京都新宿区市谷船原町11

TEL 03-3266-9039

<http://www.ienohikari.net>



JAグループ 家の光協会



つがるロマン  
TSUGARU ROMAN



青天の霹靂  
SEITEN NO HEKIREKI



まっしぐら  
MASSHIGURA

## 青森から3つの「美味しい!!」

青森米本部  
aomori-komehonbu.jp



©やなせたかし

**Nツアー 30周年感謝祭 特別宿泊プラン 対象施設一覧**

**北海道エリア**  
阿 婆 湯 ホテル阿婆湯荘  
湯 野 湯 大江本亭  
藤 巻 湯 ホテル大湯  
十 勝 川 登井ホテル  
定 山 湯 定山湯ビューホテル 本館  
登 別 登別万世館

**東北エリア**  
津軽南田温泉  
津軽南田温泉 ホテルアップルランド  
繋 温 泉 愛真館  
遠刈田温泉 旬樹庵さんさ亭  
男 鹿 温 泉 セイコーランドホテル  
天 童 温 泉 ホテル王将  
穴 原 温 泉 旬樹庵いづみや  
熱 塩 温 泉 熱塩温泉山形屋

**関東・甲信越エリア**  
筑 波 山 筑波山ホテル青木館  
桂 子 桂子館山リゾートホテル  
万 葉 温 泉 日楽館  
安 房 小 湊 湊ちてくる心の旅吉野  
安 和 温 泉 華やかの御宇旅館  
琴 科 温 泉 神谷温泉旅館  
寺 泊 温 泉 寺泊温泉ホテル飛鳥

**東海・北陸エリア**  
三河三谷温泉 松島園  
日 賀 賀 日賀温泉光ホテル  
鳥 羽 湯 鳥羽グランドホテル  
魚 津 金太郎温泉  
山 代 温 泉 白山温泉亭  
松 島 温 泉 美寿荘

**関西・中四国エリア**  
京都東山 ホテル東山館  
湯の花温泉 おもてなしの湯 湯山邸  
湯 野 湯 グランドホテル湯野湯  
小 豆 湯 小豆湯グランドホテル水明  
今 治 ホテルアジュール汐の丸  
舞 川 舞川温泉ホテル  
高 知 高知プリンスホテル  
足 尾 湯 足尾(パンフィック)ホテル花柳

**九州エリア**  
長 崎 崎 安太楼  
平 戸 温 泉 田原観光ホテル銀松亭  
長 野 内 湯 野 内 湯 プラザホテル  
長 谷 湯 温泉 ホテル長谷湯 湯屋  
美 郷 本 湯 美郷プリンスホテル  
青 島 温 泉 青島グランドホテル

お問い合わせ・お申し込みは

（一社）日本旅行業協会正会員 観光庁長官登録旅行業第039号  
株式会社 農協観光 青森支店  
〒030-0847 青森市東大野二丁目1-15  
総合旅行業務取扱管理者：伊藤 孝・田川まさみ  
TEL 017-729-8800  
FAX 017-729-8803

観光庁長官登録旅行業第939号  
観光 株式会社 農協観光 代理業  
青森県知事登録旅行業代理業第15号  
JA 津軽みらい旅行センター  
☎0172-40-2293  
総合旅行業務取扱管理者 / 新岡美香子

青森県知事登録旅行業代理業第13号  
JA 十和田おいらせ旅行センター  
☎0176-23-0374  
国内旅行業務取扱管理者 / 音道美保子

青森県知事登録旅行業代理業第26号  
JA ゆうき青森旅行センター  
☎0175-72-1433  
総合旅行業務取扱管理者 / 八重樫泰浩

ありがとうございます

30周年 感謝祭

日本全国 感謝の 42軒

これからずっと

お水打様で42軒は30周年を祝えます。 皆様のご愛顧に感謝を込めて、特別宿泊プランをご用意しました。

30周年感謝祭特別宿泊プラン

期間限定 令和元年 10月 ▶ 令和2年 3月の間で 3の付く日は、

6,980円

1泊2食 タ・朝食付

10月 10日 10-10-10 11月 11日 11-11-11 12月 12日 12-12-12  
1月 1日 1-1-1 2月 2日 2-2-2 3月 3日 3-3-3

※詳細については別途案内もございますので各施設にお問い合わせください。  
1室2名様から同一代金

株式会社 農協観光 JA 旅行センター

# 作品介绍

令和元年度 JA共済全国小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール

■文部科学大臣賞（大賞）

黒石市立黒石小学校 6年

佐々木 胡春

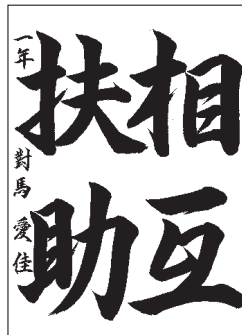
■JA共済連会長賞・佳作

弘前大学教育学部附属中学校 1年

對馬 愛佳

■JA共済連会長賞・佳作

むつ市立大湊中学校 1年 外崎 新



■JA共済連会長賞・銅賞

青森市立浪打小学校 1年 奈良智哉



■JA共済連会長賞・佳作

弘前市立第一中学校 3年 川村亮誠



■JA共済連会長賞・銀賞

弘前市立致遠小学校 2年

福地 咲文



■JA共済連会長賞・佳作

八戸市立第一中学校 3年

関口 実佳



発行所 / JAグループ青森 発行人 / 小山 主税  
 JA青森中央会 / JAバンク青森  
 JA全農あおもり / JA共済連青森  
 〒030-0847 青森市東大野二丁目1番地15  
 ☎017-729-8767 (JA 青森中央会総務部)

印刷所 / 長尾印刷株式会社  
 令和2年2月10日発行  
 定価 / 200円  
 (会員の購読料は賦課金に含まれています)